

## ごあいさつ

座間市教育委員会 教育長 木島 弘

東中学校におかれましては、令和3・4年度座間市教育課程等研究推進委託校として「授業内評価の方法と活用～生徒の『疑問(?)』と『感動(!)』をもとに～」を主題に研究を進めていただきました。指導と評価のつながりを意識して授業づくりを行うことで、教員自身の授業改善がなされていくのではないかという仮説のもと、全教員で授業改善に取り組んでいただきました。授業づくりの際にはユニバーサルデザインの視点を取り入れることも意識し、どの生徒にもわかりやすい授業を行っていたことから生徒自身も意欲的に自らの学習を調整する姿が見られるようになりました。未だ教育活動への制限が続く中、様々な対策を取りながら熱心に研究を進めていただきました大沢校長先生、教職員の方々に敬意を表しますとともに、本研究の推進に際し丁寧に御指導・御助言をいただきましたお茶の水女子大学附属中学校藤原大樹先生、地域の皆様に心より感謝申し上げます。

## ごあいさつ

座間市立東中学校 校長 大沢 奈緒美

このたび令和3・4年度座間市教育課程等研究推進委託校として、本研究の成果を発表させていただき機会を与えていただき、すべての教員が本校独自の指導案のもとに、授業改善に向けて研究授業を積み重ねてまいりました。

学校目標にある『自らの可能性を切り拓く心豊かな生徒の育成』を目指すために、「評価規準を明確化し可視化するためには、どうしたらよいか。」を模索しつつ、主体性や思考力といった数値化しにくいことを評価する際には、特に「妥当性と信頼性」をどう獲得したらよいかを考え、研究を進めてまいりました。本日は、このような視点においてご指導・ご鞭撻をいただけたら幸いです。

末尾になりましたが、これまで3年間にわたりご指導いただきましたお茶の水女子大学附属中学校藤原大樹先生をはじめ、多くの先生方、座間市教育委員会の皆様のお力添えに深く感謝申し上げます。

## 一人一人の価値・可能性を大切にする指導と評価

お茶の水女子大学附属中学校 藤原 大樹

1930年代に米国の教育学者 R. Tyler は、それまでの評価が対象の数値化 (measurement) に終始していたことを批判し、対象の価値を評価し改善に生かす概念 (evaluation) を導入しました。その後、様々な方法での多面的な資料収集 (assessment) に発展し、今日に至ります。

東中学校の先生方の3年間の取組の中心には、授業中の生徒の心の動きに着目し、一人一人の取組の価値・可能性を伸ばす／見いだす／次につなげるという学習評価の原点がありました。平成29年告示学習指導要領前文と通底するその精神と具体的な方策には、私たち教師が学ぶべき点が多くあります。

